

保育所入所A I マッチングシステムの導入について

保育園の入所選考について、時間短縮など事務の効率化により区民サービスの向上を図るとともに、職員の負担を軽減するため、保育所入所A I (人工知能) マッチングシステムを平成31年10月に導入します。

1 実証実験の実施の背景

保育園の入所申込者数は年々増加傾向にあり、4月入所の選考(利用調整)にあたっては、入園の内定者の決定に多くの時間を要しています。

また、4月入所の選考は、2回(一次、二次)の選考を行うとともに、入園決定者の保育料の決定通知の送付や各保育施設との入園者の調整など業務が大変集中する中で、正確な選考を行っていくことが求められています。

こうした状況の中、保育所入所A I マッチングシステム(以下「A I システム」という。)の活用の可能性を判断するために、本年5月25日に開発事業者と協定を締結し実証実験を行いました。

2 実証実験の概要

(1) 対象

実証実験は、平成30年4月入所の一次選考のデータを基に実施しました。

(2) 実験の経過と結果

1回目の実証実験では、職員による選考との一致率は85%程度となりました。その後、職員による選考結果と不一致となったデータの原因について検証を重ね、特別な利用調整が必要となる障害児を除くなど提供するデータの選択やA I システムの改善などを行いました。その結果、5回目の実証実験では、港区における保育の利用調整基準に基づく保育所入所選考の作業を100%一致させることができました。

実証実験により、A I システムは、港区における保育所の入所選考をより適切にできる部分もあることから、A I システムが有用であることが立証できました。A I システムの導入により、保育園の入所申込みが集中する4月入所の選考では、大きな効果が期待できます。

3 A I システム導入と課題

A I システムを導入するためには、以下の課題があり、他のシステムと同様にシステムの設計や開発が必要であることから、平成31年10月に導入することとします。

(1) AIシステムへのデータ取込みツールの構築

保育所関係データを管理している保健福祉総合システムから出力する入所申込みデータをAIシステムに取り込むためには、データの変換が必要です。今後、変換するためのツールを構築するため、仕様の調整が必要です。

※実証実験では、事業者が手作業によりデータ変換を行いました。今後、本格導入に向けては、データを自動変換するための仕組みが必要です。

(2) 障害児等の運用の決定

障害児等は、受け入れ可能な保育園が限定される場合があることから、内定決定の際にあらかじめ調整を行う必要があります。実証実験では、調整が必要な障害児を除いて振り分けを行ったため、今後障害児の選考方法についての検討が必要です。

(3) 複数パターンでの検証の実施

実証実験は、平成30年4月入所の一次選考のデータを利用した結果であり、本格導入するために、平成31年4月入所のデータや5月以降の毎月の選考データで検証を行い、精度を確実にしていく必要があります。

(4) 選考結果の保健福祉総合システムへの取り込み

AIシステムによる選考結果は、保健福祉総合システムへ取り込み、内定通知の発行や保育料決定を行う必要があります。今後、RPA（Robotic Process Automation 業務自動化）を活用し、入所選考結果を保健福祉総合システムへ取り込む仕組みを構築します。

4 導入の効果

(1) 区民サービスの向上について

AIの活用により、入所選考会議に係る時間短縮が見込まれることにより、内定発表の日程を早めることが可能となるなど、区民サービスの向上につながります。

(2) 事務の効率化について

平成30年4月入所の選考会議（一次）の振り分け作業は、区民課長（1名）のほかに、区民課保健福祉係長（1名）、各地区保健福祉係保育担当職員（10～15名）、保育課保育支援係職員（2名）を基本として、約30時間かけて行っています。

また、4月（二次）の選考や毎月の入所選考についても同様の体制により選考会議を行っており、AIを活用した入所選考の実現により職員の負担の軽減が見込まれ、人件費の削減効果は、年間400万円程度（1,400時間）になると見込まれます。

5 今後のスケジュール（予定）

平成30年11月下旬	第4回港区議会定例会（補正予算）
平成31年 1月上旬	契約締結
2月～3月	平成31年4月入所の選考
4月～9月	入所選考時のAIシステム活用による検証
10月 1日	本格導入

保育園入園申込みから入園決定までの流れ（4月一次申込み）

